



## 救急フェア2014開催！

(気仙沼保健福祉事務所)

9月6日(土)イオン気仙沼店で、『救急フェア2014』を開催しました。

このイベントは救急医療への正しい理解と普及啓発を図るため、9月9日の『救急の日』に近い週末に、イオン気仙沼店の協力を得て、関係機関と共催で毎年実施しています。

今年は気仙沼高校の阿部力丸(りきまる)さんと気仙沼西高校の尾形成海(なるみ)さんに一日救急隊長をお願いしました。また、ホヤぼーやとみやぎ消太くんも参加し、一日救急隊長とともに、救急医療や応急手当の普及啓発活動や心肺蘇生法の実技講習を実施しました。



(特設した健康相談所)



(心肺蘇生法の実技講習)

そのほか、消防車両等の展示や記念撮影、献血、保健師による健康相談を行い、多くの方々に御参加いただきました。特にはしご車の試乗体験は子どもたちに大変好評でした。



(一日救急隊長の委嘱式)

## 難病医療講演会が開催されました！

(気仙沼保健福祉事務所)

9月6日(土)に、宮城県難病相談支援センターの主催で、当事務所を会場に「難病医療講演会」が開催されました。

今年度は潰瘍性大腸炎及びクローン病の患者・家族の方や、保健・医療・福祉関係者等を対象に、「炎症性腸疾患と最新の治療について」と題し、東北大学病院の木村智哉先生から病気の原因や治療方法の最新情報等の講演をしていただきました。



(講演に聴き入る参加者)

講演後は、炎症性腸疾患友の会会長の高村秀幸

さんを司会とし、参加者からの相談・質問に木村先生が回答する時間が設けられました。1時間ほどの時間で、多くの方が病状や日常生活における不安等について質問され、熱心に先生の回答をメモする姿が見られました。

講演会は終始和気あいあいとした雰囲気の中行われ、参加者は炎症性腸疾患に対する知識を深められていました。

### 秋の探鳥会が開催されました

(気仙沼地方振興事務所 農林振興部)

10月24日、気仙沼市立小泉小学校の探鳥会が田東山で開催されました。

小泉小学校は、県の野生鳥獣保護事業の一環で愛鳥モデル推進校に指定されており、これまで、野鳥の勉強会や学校周辺での観察会を行ってきました。

今回の探鳥会は学習の総まとめとして、学校行事の田東山登山と同時に開催されたものです。

当日は、晴天に恵まれ、子供たちは元気良く山道を登りながら、フィールドスコープなどを使って野鳥を観察しました。



(ホオジロだ！)



(田東山頂にて観察)

野鳥観察の適季は初夏の頃であり、たくさんの種類の野鳥と出会うことはできませんでしたが、低学年の児童は休憩場所の公園でじっくりと野鳥を探し、ホオジロなどを観察することができたほか、児童全員が山頂に到着した後、班に分かれて林内を探索したところ、ヤマガラを見つけた班もありました。

下山前に、広田湾から志津川湾まで一望できる山頂からの景色を堪能し、自然豊かな田東山での探鳥会により、野鳥と自然環境に対する児童らの関心が高まった様子でした。

### 第7回みやぎ児童・生徒「木工工作」コンクールで教育長賞を受賞しました

(気仙沼地方振興事務所 農林振興部)

宮城木材文化ホール運営委員会の主催による『第7回みやぎ児童・生徒「木工工作」コンクール』が宮城木材文化ホール(仙台市)で開催され、気仙沼管内からは2点の応募があり、南三陸町立戸倉小学校から出品された「おさいせん箱」が小学校中学年の部で教育長賞を受賞しました。



(教育長賞を受賞した「おさいせん箱」)

このコンクールは、かけがえのない森林を後世に引き継ぐため、次代を担う子供たちに身近な森林や木材の良さを知ってもらうことを目的とし、県産木材の利用推進を図る「みやぎの木づくり運動2014」の一環として、木材や林産物を利用して製作した作品を対象に開催されたものです。

応募部門は、①小学校低学年の部(1・2年)、②小学校中学年の部(3・4年)、③小学校高学年の部(5・6年)、④特別支援学校の部(全学年)の4つがあり、県内では93点の応募がありました。そのうち、各地方振興事務所の予備審査で選出された30点で本

審査が行われました。

今年も審査員泣かせの力作揃いで、いずれもアイデアや独創性に富んだ、木の良さや持ち味が生かされた作品でした。

入賞作品は、11月11日から15日まで、仙台市の東北電力グリーンプラザに展示され、木材利用のPRが図られました。

### 新しょうがを使った農産加工講座を開催しました

(本吉農業改良センター)

本年度から新たな地域食材として、しょうがの生産支援に取り組んでいます。

秋に収穫される新しょうがは、一般に利用される古根(ひね)しょうがと比べ、色白でみずみずしく、さわやかな辛みが特徴です。

10月6日生活研究グループ員と4Hクラブ員を中心に、新しょうがの特徴を生かした付加価値の高い商品開発を目指し、加工講習会を開催しました。

加工講座の講師は、「キッチンスペース夢の舎」の石田厨房長にお願いし、「しょうがご飯」「しょうがの佃煮」の調理実演を見学した後、調理実習に取り組みました。

普及センターでは、「夢の舎レシピ利用によるコラボ商品」という形で、しょうがご飯の具材を「しょうがご飯の素」として商品化したいと考えています。

今後も地域食材を使った商品開発を支援していきます。



(出来上がったしょうがご飯)

### サワールージュ加工講習会を開催しました

(本吉農業改良センター)

サワールージュは、みやぎオリジナルりんご品種で、酸味が強く、お菓子の材料に適しています。収穫期

は、9月下旬から10月上旬、鮮やかな赤で着色が良いのが特徴です。管内では、JA南三陸果樹生産部会員12戸が栽培しています。

その加工品開発に向け、10月9日、JA南三陸果樹生産部会主催で、気仙沼市の(株)斉吉商店レンタルキッチンを会場に講習会を開催しました。

当日は、大崎市美里町の伏見豆腐店スイーツ担当で野菜ソムリエの勝又千枝先生を講師に、果樹生産部会部会員、加工部会員および市内のコーヒー店従業員の12名が参加して、ジャム、焼きりんご、コンポート、リーフアップルパイ、豚肉のソテーのジャム添えを作り、調理方法を習得しました。講師が持参したサワールージュ、ふじ、ひめかみ、つがるのジャムを食べ比べた結果、サワールージュが、酸味があり、皮を入れることで赤色となり、たいへん好評でした。

地元の加工部会やお菓子屋さんでのサワールージュ加工品開発について支援していきます。



(収穫間近のサワールージュ)

### 耕作放棄地発生防止研修会～緑肥を活かそう～を開催しました

(本吉農業改良センター)

管内では、農業従事者の高齢化や鳥獣被害の拡大などによる耕作放棄地の増加が以前から問題になっていましたが、震災後は復旧農地の地力不足という新たな課題も加わり、耕作をあきらめる人も出ています。

そこで、地力増進や雑草抑制、景観美化など様々な効果が期待される緑肥を復旧農地の地力回復や農地保全の省力化に役立てようと、10月29日に南三陸まなびの里「いりやど」を会場に、耕作放棄地発生防止研修会を開催しました。

講師には、雪印種苗株式会社宮崎研究農場長の立

花正氏をお招きし、利用場面に応じた草種と品種の選び方や効果的な使い方について学びました。また、普及センターからは柿畑の除草管理の省力化を目的に取り組んだヘアリーベッチの試験結果を報告し、講師から抑草期間を長くするための方法についてアドバイスをいただきました。

引き続き、耕作放棄地の発生防止と地域農業の活性化に向けて支援していきます。



(熱心に受講する出席者)

### 水稲直播・飼料用イネ専用品種現地見学会を 開催しました

(本吉農業改良センター)

管内で農地の復旧が進む中、ほ場整備事業を実施している地区の中には直播への取組を検討している地区もあり、低コスト稲作技術として直播への関心が高まっています。

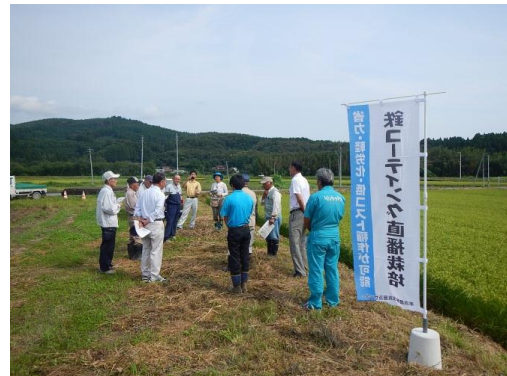
また、飼料用イネの栽培が全国的にも拡大していることから、新しい多収米品種への関心も高まっています。

そのような状況を踏まえ、直播栽培と飼料用イネ専用品種の実際の生育状況を見てもらおうと、9月8日、気仙沼市本吉町小峰崎地区で「水稲直播・飼料用イネ専用品種現地見学会」を開催しました。

当日は、管内ではほ場整備事業を実施している地区の方々や水稲直播栽培実践者を中心に、関係機関も含め22名が参加しました。

見学会では、鉄コーティング直播栽培と飼料用イネ専用品種「リーフスター」の実証ほを見学しながら、これまでの生育状況やほ場管理等を説明しました。参加者は、直播栽培ほ場の移植栽培と遜色ない稲姿や飼料用イネ専用品種の籾の大きさや穂の長さに関心していました。

今後も低コスト稲作に向けた直播栽培や水田活用のための飼料用イネの普及を支援していきます。



(鉄コーティング直播ほ場見学の様子)

### 気仙沼水産試験場新庁舎の安全祈願祭が 行われました

(水産技術総合センター気仙沼水産試験場)

11月7日に気仙沼水産試験場新庁舎の安全祈願祭が行われました。

東日本大震災で被災した旧庁舎敷地から第2種波路上漁港内に移転して再建されることとなりましたが、2回目までは応札者がなく、10月の3回目の入札で落札しました。これでやっと気仙沼水産試験場の再建が動き出すことになりました。



(施工業者の方々が出席して行われた安全祈願祭)

施設概要は、本館がRC造3階(延べ面積1,094㎡)、種苗生産棟S造平屋(延べ面積600㎡)、附属棟RC造平屋(延べ面積76㎡)、敷地総面積6,000㎡等となっており、完成は平成27年9月と見込まれております。

種苗生産棟は養殖業者が種苗生産技術を学習したり、実際に種苗生産を実施するオープンラボとして解放することとしていることから、恒温飼育室や微小藻類の精密培養室も整備します。これにより、藻類の

みならず、二枚貝類の種苗生産も可能となります。

資材不足や作業員不足の中で完成時期が遅れる心配もありますが、一日も早い完成が望まれるところです。

### 「あまころ牡蠣」の試験養殖が始まりました

(水産技術総合センター気仙沼水産試験場)

11月5日に新たなブランド牡蠣「あまころ牡蠣」の試験養殖が始まりました。

「あまころ牡蠣」は、東日本大震災で被災した牡蠣養殖業を再興するために試験されている天然種苗由来の未産卵一粒牡蠣です。宮城県の海から豊富に採れる牡蠣の種苗(種牡蠣)を活かし、また、プラスチック製の採苗器を使って稚貝の段階から一粒牡蠣にすることで、形がよく身入りのよい牡蠣を効率良く生産することができます。さらにシリコン系防汚剤を利用した「汚れない養殖カゴ」を使い、汚れによるカゴの目詰まりを防ぎつつ掃除の手間を省いています。



(あまころ牡蠣の種苗をカゴに入れて海に下げている様子)



(東京のオイスターバーで宮城の地酒とともに提供されるあまころ牡蠣)

今年6月に東京都内のオイスターバーに試験出荷

したところ、大変な好評をいただきました。また、試食会でのアンケート調査でも、従来の殻付きカキと比較し「味わい」「見た目」で高い評価を得ております。

今シーズンの志津川湾では、約8万個の稚貝(種牡蠣)採取に成功し、大きさに選別後、養殖筏に垂下されました。

商品サイズは殻高(貝殻の蝶つがいから下までの長さ)で6センチくらいから。成長が待ち遠しいです。

### ギンザケの海面養殖が始まりました

(気仙沼地方振興事務所 水産漁港部)

日本におけるギンザケ海面養殖は、昭和50年に志津川湾で始められ、その後、県中部にも養殖が広がり、震災前の生産量は全国生産の9割以上を占めていました。南三陸町の志津川・戸倉両地区では、震災前は14経営体が養殖を行っており、震災により養殖生簀や養殖していたギンザケが流出する等壊滅的な被害を受けましたが、現在では、13経営体が養殖を再開しています。



(内水面の養魚場から搬入したギンザケを船の水槽に移す様子)



(内水面で育てたギンザケ)

ギンザケは内水面の養魚場において、今年1~3月にふ化した稚魚を150~200gまで育て、10月下

旬から12月にかけて海の養殖生簀に移します。海面養殖されたギンザケは、翌年の初夏には2～3kgまで成長します。

南三陸町の志津川・戸倉両地区では、10月24日から11月下旬頃まで内水面の養魚場で育てられた稚魚を海の養殖生簀に移す作業が行われています。これから海面で大切に育てるギンザケは、来年の3月頃から出荷が始まります。

### 大型の冷蔵庫や加工処理施設の完成が 相次いでいます

(気仙沼地方振興事務所 水産漁港部)

震災から3年が経過し、嵩上げや区画整理が終わった土地における大型の冷凍冷蔵庫や加工処理施設の完成が相次いでいます。

8月に赤岩港水産加工団地に完成した気仙沼水産食品事業協同組合の加工場・冷凍冷蔵庫は、2,400トンの保管能力を持ち、9月に南気仙沼地区水産加工施設等集積地に完成した南気仙沼水産加工事業協同組合の超低温冷蔵庫は気仙沼市内最大級の5,000トンの保管能力を持ち、それぞれ稼働を開始しました。これらの冷蔵庫や加工場の完成により、サンマやサバの等の近海物の受け入れ機能が高まり、気仙沼魚市場の水揚げ増加に貢献しています。また、気仙沼の漁業の主力の一つであるマグロ延縄漁業の母港への水揚げの促進にもつながることが期待されています。



(気仙沼水産食品事業協同組合)

これらの施設は、所属組合員の共同利用施設として水産加工原料の安定供給を行う役割を担い、組合員の安定した経営を支え、気仙沼の水産業の復興に寄与することが期待されています。



(南気仙沼水産加工事業共同組合)

### 気仙沼漁港廃油処理施設が復旧しました

(気仙沼地方振興事務所 水産漁港部)

東日本大震災で被災し、利用できなかった気仙沼漁港の廃油処理施設が復旧し、9月9日から供用開始されました。

供用にあたり、気仙沼市長並びに小野寺五典衆議院議員を始め関係者による開設式典を行い、廃油処理施設の始動とともにくす玉を開披して復旧を祝いました。



(気仙沼漁港廃油処理施設)



(始動に合わせて、来賓等関係者によるくす玉開披をして開設を祝いました)

復旧された施設は、鉄筋コンクリート一部2階建て約372㎡、廃油の受入タンク容量は52㎡、一日の処理能力は10㎡(6hr)となっており、多種多様な性質のビルジ(漁船の船底に溜まる油混じり廃液)に対し

て安定した処理が可能な施設となっております。

施設の管理・運営は、業務委託によりNPO法人気仙沼清港会が担い、今後は気仙沼漁港の重要な漁港機能として、入港した船舶のビルジ処理等を行います。

## 平成26年度第35回少年の主張気仙沼・本吉地区大会が開催されました

(気仙沼地方振興事務所 総務部)

平成26年度第35回少年の主張気仙沼・本吉地区大会が、9月11日に気仙沼市立鹿折中学校を会場として開催されました。

当大会は、広い視野と柔軟な発想や創造性などとともに、物事を論理的に考える力や自らの主張を正しく理解してもらおう力などを身に付けることを目的に毎年開催しています。

当日は、気仙沼・本吉地区の各中学校から推薦された15名が、会場となった鹿折中学校生徒の皆さんや参集いただいたご父兄の皆さんの前で、学校生活・家庭での様々な体験などをもとに、これからの自分の生き方や社会に対する前向きな想いを熱く語りました。

力強く主張する姿は、前向きに取り組む姿勢が表れ、聴衆に大きな感動を与えてくれました。



(大会終了後の集合写真)

厳正な審査の結果、最優秀賞には「もう一度」を発表した気仙沼市立大島中学校(3年)櫻田実希さんが選ばれ、当地区を代表して県大会に出場することになりました。

なお、櫻田さんは9月26日に開催された県大会では、地区大会と同様に、その実力を遺憾なく発揮され優秀賞の榮譽に輝きました。

## 気仙沼・南三陸復興スタンプラリー2014を実施しました

(気仙沼地方振興事務所 地方振興部)

「仙台・宮城【伊達な旅】春キャンペーン2014」(平成26年4月から6月まで開催)終了後、当事務所では、引き続き管内への観光客の誘客及び域内流動の促進を図るため、7月26日から9月28日までの約2か月間、「気仙沼・南三陸復興スタンプラリー2014」を実施しました。

管内の主な観光施設や仮設商店街など12か所にスタンプを設置し、このうち、3か所のスタンプを押印してもらい応募を受け付けたところ、全国から706通の応募がありました。

押印数が一番多かったのは、7月19日にグランドオープンした「気仙沼海の市」で、次いで「道の駅大谷海岸」、「気仙沼さかなの駅」の順となっています。また、応募者の居住地は、県外が約6割、県内が約4割でしたが、津波体験館を備える唐桑半島ビジターセンターでの押印割合は、約9割が県外でした。

なお、応募者の中から抽選で50名の方に気仙沼市又は南三陸町の特産品をプレゼントしました。



(気仙沼・南三陸復興スタンプラリー2014応募用紙)

## 岩手県沿岸広域振興局との意見交換会を開催しました

(気仙沼地方振興事務所 地方振興部)

11月25日に岩手県沿岸広域振興局(大船渡地区)との意見交換会を、気仙沼市内において開催しました。

この意見交換会は、宮城・岩手の県境に接し、管

内の地理的状況や産業形態が類似する沿岸広域振興局と当事務所が、共通する課題等について情報交換や意見交換を行い、課題解決の一助とすることを目的に平成14年度から開催しているものです。

しかし、震災により継続が困難となったため開催を中断していましたが、今回の再開を契機に意見交換のテーマを広げ、地域振興のほか水産振興や農林振興についても幅広く意見交換を行いました。また、この意見交換に先立ち、気仙沼市木造災害公営住宅(モデル住宅)及び気仙沼漁業協同組合製氷工場を視察し、気仙沼管内の復興状況について理解を深めました。

次回は、大船渡管内において意見交換会を開催することとし、今後も沿岸広域振興局と当事務所が連携を深めていくことにより、さらなる発展につなげることを確認しました。



(気仙沼市木造災害公営住宅(モデル住宅)の視察)

### 「リアス・アクティブ21」交流会が開催されました

(気仙沼地方振興事務所 地方振興部)

10月22日、23日の両日、気仙沼・本吉地域の異業種交流組織「リアス・アクティブ21」と仙南地域の異業種交流組織「ブルースカイネット」との交流会が開催されました。

この交流会は、両団体の活動紹介や意見交換等を通じて相互理解を深め、会員同士による事業連携など経済交流の契機とすることを目的として初めて開催されたものです。

交流会では、それぞれの団体や地域の課題等について活発な意見交換が行われ、沿岸部と内陸部の得意分野を生かしながら両地域の交流を深めていくことに期待を寄せる声が聞かれました。また、2日目は、東日本大震災の記録を展示しているリアスアーク

美術館の見学や、鹿折地区及び魚市場周辺で復興状況の視察を行いました。

二日間の交流会を振り返り、参加者からは有意義な交流会であったとの感想が聞かれ、今後の活動が期待されます。



(「リアス・アクティブ21」交流会の様子)

### 全国井グランプリで南三陸キラキラ井が 金賞に輝きました！！

(気仙沼地方振興事務所 地方振興部)

日本全国の素晴らしい井を多くの人に知ってもらうために全日本井連盟(全井連)が主催する第1回「全国井グランプリ」の投票結果が、11月10日「いい井の日」に発表され、「南三陸キラキラ井」がご当地部門で金賞を受賞しました。

同グランプリでは、ご当地部門のほか海鮮井部門やカツ井部門など、11部門に募集のあった全 1,300種の井から全井連が一次選考した「優秀井」200種を対象に、9月から約1か月間にわたって Web 投票が行われ、75の「金賞井」が決定しました。



(南三陸キラキラいくら井)

また、南三陸町観光協会では、12月31日まで「金賞受賞記念キャンペーン」を行っており、南三陸キラキラ井提供店で南三陸キラキラいくら井を注文する時に、協会の公式 Facebook で「いいね！」を押した状



態の画面を提示すると、キラキラ井応援キャラクター「イクラン」又は「キララン」のピンバッジがもらえます。(キャンペーンはピンバッジが無くなり次第終了となります。)



(「イクラン」(左)と「キララン」のピンバッジ)

**【問い合わせ先】**

一般社団法人南三陸町観光協会

電話:0226-47-2550

URL:<http://www.m-kankou.jp/>